

平成31年1月1日

会員各位

# 協会だよりー3101(1月号)

JCRA (Japan Catalyst Recovering Association)  
触媒資源化協会

## 2019年頭のご挨拶

会長 安田 豊\*

新年あけましておめでとうございます。

会員各社の皆様並びに関係各位におかれましてはつつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。2019年の新春を迎えるにあたり、年頭のご挨拶を申し上げます。



昨年は、相場格言では「戌笑う」（好景気で笑って過ごせる）と言われておりました。会員各社の皆様におかれましてはどのような一年だったでしょうか？日経平均株価をみると10月2日には24,448.07円の高値を記録し好景気を感じさせたものの、同月末頃には21,150円を下回る急落をみせ、それ以降乱高下を繰り返しております。

国内では漢字能力検定協会が毎年発表している2018年の漢字が「災」に選ばれた通り、日本各地で台風、豪雨、地震などの多くの自然災害が発生いたしました。被災された方々及び地域に思いをはせると共に、一日も早い復興を祈らずにはおれません。スポーツでは平昌五輪やロシアWCなどスポーツの祭典が開催され、華麗なプレーの数々が世界中を魅了いたしました。カーリング日本代表の「そだねー」は流行語大賞を受賞し、社会現象となりました。

国際情勢は米国中間選挙が実施され、トランプ大統領率いる共和党が下院議席の過半数を民主党に奪われ、議会がねじれ状態となり、今後厳しい議会運営が予想される事態となりました。また、米中貿易問題についても、12月の首脳会談で90日の期限を設けて協議する方針が発表されて市場は一旦落ち着いたものの、協議内容での両国間の認識の溝が浮き彫りになるなど、予断を許さない状況は来年に持ち越されることとなりました。

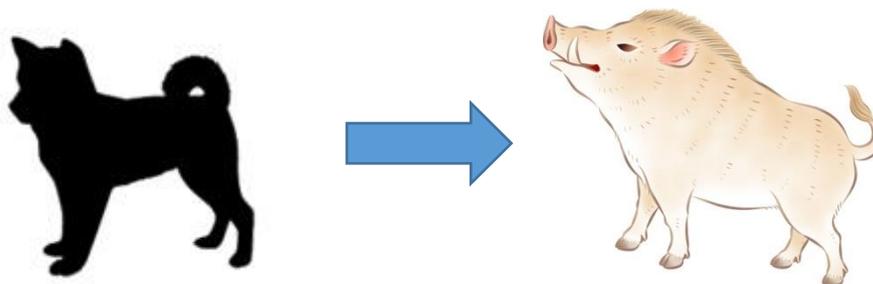
さて、今年は亥年。相場格言では「固まる」と云われ、戌笑う環境が固まり安定する年だと言われておりますが、2018年の市場環境からは固まることが想像できにくい状況であります。日本でも平成最後の年を迎え、5月には新たな元号の時代の幕開けとなります。新しい年はどのような年になるのでしょうか？

産業では、自動車各社の電動化推進の方向は継続しており、関連する業界では電池に使用する資源への注目が高まっております。中国の「国門利剣（ナショナルソード）2017」に端を発したスクラップの輸入停止の動きに関しても、2018年末には残存していた輸入ライセンスも更新が停止され、中国に流出していた資源の国内還流がさらに加速していくことが見込まれております。そのため、我々静脈側を担う産業の重要性が以前にも増して高まるものと予想されます。資源に乏しい我が国においては、国内における資源の有効活用が重要であり、リサイクル分野では経済合理性を担保出来る技術開発や協業等による新たな仕組み構築が喫緊の課題であります。IoT（モノのインターネット）、AI（人工知能）、ビッグデータ等の新技術が、効率化や高速化、省人化等を推進する原動力となり、あらゆる産業においてビジネスモデルや業界構造の変革が起こりつつあります。これらの新技術を用いてリサイクル分野では「収集運搬の効率化」、「解体選別の自動化・効率化」、「プラントの操業・保全の最適化」等への活用が大いに期待出来ます。

当協会では、少しでも会員各社の事業の取り組みのお役に立てるよう専心努力して参る所存ですので、是非とも関係ご当局並びに会員各社の皆様方には、当協会の活動に一層のご指導・ご支援を賜りますよう改めてお願い申し上げます。

最後になりましたが、会員各社のますますのご発展と、関係各位ならびにご家族のご多幸、ご健勝を祈念致しまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

※ J X 金属(株) 執行役員 環境リサイクル事業本部長



触媒資源化協会

2・【トピックス】:

平成30年度第4四半期の行事

- ① 2018年1月ー12月の実績報告（正規会員対象）
- ② 平成31年1月18日（金）第5回運営委員会の開催
- ③ 平成31年2月08日（金）第239回月例会・講演会&新年会の開催
- ④ 平成31年3月15日（金）第6回運営委員会（年度最終）の開催



- 一. 協会よりのお知らせ  
安田会長・2019年初頭の「挨拶」
- 二. 「トピックス」
- 三. 「実施済事項」
- 四. 「予定事項」
- 五. 事務局より（一月度の予定）
- 六. 【雑学】新シリーズ（小林尚道氏寄稿）  
「絆」で結ぶ三陸海岸訪問（2）

3. 【実施済事項】

- ① 協会だより312（12月号）をHPに更新・各会員並びにOB各位に通知
- ② 会員専用HPの更新  
11月度経費報告
- ③ 全会員へ第239回月例会の開催案内と参加者の確認をメールにて実施
- ④ 第5回運営委員会の開催通知と確認
- ⑤ 新会員希望会社への会則・申込書のメール送付

#### 4. [予定事項]

##### ① 第5回運営委員会の開催

日時：平成31年1月18日(金) 16:00-17:00懇親会19:00まで

場所：堺化学工業(株)東京支店 会議室

住所：千代田区岩本町2-3-3 ザイマックス岩本町ビル2階

電話：03-5823-3724

議題：●第239回月例会(講演会・新年会) 役割分担・運営確認

幹事担当会社：

239回月例会(ヘラウス(株)・DOWAメタル(株)・三菱マテリアル(株)松田産業(株))

運営委員担当会社：

239回月例会(日誠金属(株)・相田化学工業(株))

運営委員会会社：

堺化学工業(株)・石福金属興業(株)・クラリアント触媒(株)・横浜金属(株)・安田薬品(株)・ユミコアジャパン(株)

##### ② 2018年の触媒資源化実績報告と整理

正会員会社対象に毎年実施している2018年1月1日から12月31日までの各部会(貴金属部会・Ni-Co部会・Mo-V-W部会・アルミナその他部会・レアメタル部会)の使用済触媒からの資源化と使用済触媒以外からの資源化した実績量を調査するための資料をメールにて送付して1月31日を目途に提出された資料を基に全体を整理して、「2018年版触媒資源化実績報告書」の編纂を行います。

#### 5. 事務局(1月度の出勤予定)

出勤予定●：8日間 ×：年末休み

日	月	火	水	木	金	土
12/30	12/31	1/01	1/02	1/03	1/04	1/05
	×	×	×	×	×	×
1/06	1/07	1/08	1/09	1/10	1/11	1/12
		●		●		
1/13	1/14	1/15	1/16	1/17	1/18	1/19
		●			●委員会	
1/20	1/21	1/21	1/23	1/24	1/25	1/26
		●		●		
1/27	1/28	1/29	1/30	1/31	2/01	2/02
		●		●		

(文責：専務理事)

【雑学】「絆」で結ぶ三陸海岸へ（震災から7年三陸応援旅行）（2）

クラブツーリズムの「絆」旅行に参加した2万人近くの方々の寄付が新・島越駅再建の一助となりました。島越駅前広場右手に寄付者の名を記した碑が建立されています。クラブツーリズムとしては、『わが社はこんなに三陸復興に協力しているんだぜ！』と、ぜひとも紹介したい場所なのでしょいか。



《島越駅》三陸鉄道北リアス線 岩手県下閉伊郡田野畑村 1-1-20



駅の愛称は「カルボナード」。宮沢賢治の童話『グスコーブドリの伝記』の舞台の一つカルボナード火山島に由来します。確かにメルフェンチックな駅舎ですね。200m南にあった旧駅舎と高架橋は2011年3月の津波で周りの住宅とともに流されてしまいました。



島越駅より南方向に津波防波堤を兼ねた高架橋が新設されました。その新設された高架橋を列車が通過しています。写真の中で橙色の丸で示したお宅一軒（海拔20mか？）のみが津波の被害にあわずにギリギリ残ったが、その下までにあった住宅（20m以下）は全て流されたといわれています。

流された旧駅舎のあった場所は、現在公園として整備されています。

《浄土ヶ浜》岩手県宮古市日立浜町 32

ご多分にもれず浄土ヶ浜も、地震と津波の被害を受けました。浄土ヶ浜レストハウスもめちゃくちゃになったとか。しかし三陸の観光中心地でもあり市やボランティアの努力で1年後には綺麗な浜に戻ったといわれています。私たちは浄土ヶ浜レストハウスで海鮮あわび付きの昼食後、白石を踏みしめ浄土ヶ浜散策、遊覧船でウミネコの餌やりと海より絶景の観賞をすることになりました。



遊覧船を下船後、浄土ヶ浜ビジターセンターまで戻り、バスで田老へ向います。

《田老の防潮堤》岩手県宮古市田老地区



万里の長城と言われた田老の防潮堤



田老の防潮堤説明板によると、『昭和8年（1933）の三陸津波の翌年、昭和9年（1934）から建設が始まり、「万里の長城」と呼ばれた高さ10m、総延長2.4kmにおよぶX型の防潮堤です。平成23年（2011）の津波によって被害を受けるまで、防潮堤は田老の町を守ってきました。田老では、震災の記憶を後世に伝え、学ぶ取り組みとして、「学ぶ防災」ツアーで現地を歩き、津波の脅威と教訓を伝えてゆきます。』と説明されています。

2011年の津波（15m）はこの防潮堤（高さ10m）を越えたといわれ200名以上の方が亡く  
なられました。しかしこの防潮堤が無ければ被害がもっと甚大であったであろうと言われ  
ています。右上の写真は、国道より海側（2011年の津波の前は建物が密集していた住宅地）  
に住宅の建設は認められず、野球場や、公園用地になっています。防災ガイドの鬼気迫る  
説明に耳を傾ける私たち。次いで津波遺構「たろう観光ホテル」に移動します。



津波はこのホテルの4階まで達したと言われています。この建物の6階で、当時の津波  
来襲シーンを6階より撮影したビデオを観賞しました。1階～2階までの壁は破壊されま  
したが、宿泊客や従業員は最上階へ非難させたため被害は避けられたようです。

遺構説明板には『平成23年（2011）3月11日の東日本大震災で高さ17メートルを超え  
るとも言われる津波の被害を受け、4階まで浸水、2階までは柱を残して流出しましたが倒  
壊することなく、現在の姿で留まりました。[遺構としての保存]今後は、訪れる人々に津  
波の恐ろしさを伝え、訪れる人々の防災意識を高めることにより、震災による被害が繰  
返されことへと繋がるよう、現在の姿のまま保存してゆきます。』と記載されています。

遺構より左手の岬へ上ると山王岩展望台があります。

《山王岩》岩手県宮古市田老字青砂里

山王岩は白亜紀（1億年頃前頃）の海に堆積してできた砂岩や礫岩（宮古層群）から構  
成されています。宮古層群が堆積する前の、北上山地の骨格を作った火山活動の痕跡です。



真ん中の松を頭に載せている大きな岩が「男岩」左にあるのが「女岩」右の団子のような  
岩が「太鼓岩」です。

次号（3）に続く  
（記：小林尚道）